

自衛隊の教育

元航空支援集団司令官 織田邦男

3月11日に発生した東日本大震災には、自衛官約10万人が動員され、大活躍したことは記憶に新しい。多くの国民が「いざという時はやはり自衛隊だ」「国の屋台骨は自衛隊だ」と実感されたと思う。

活動する隊員の真摯な姿は国民に深い感動を与えた。自分の家族も被災したにもかかわらず、自分のことは後回しにして、黙々と救助活動、捜索活動に専念する。温かい食事は被災者に、自分達は冷えた缶詰を。風呂は被災者優先で、自らはペーパータオルで身体を拭くだけ。また発見した御遺体は自分の親戚のように丁寧に扱う。こういった聖人の様な活動ぶりに、多くの国民が感動した。日頃、反自衛隊のマスメディアも流石に今回は、こういった活動ぶりを伝えざるを得なかったようだ。

活躍する素晴らしい自衛官を見るにつけ、まだまだ日本も捨てたものではないと思う。同時に、自衛隊の教育は間違っていなかったという思いを強くする。

小生も現役時代、同じ思いをした。航空自衛隊はイラク派遣を5年間実施した。後半の2年8カ月、小生は航空部隊指揮官としてイラク派遣の指揮をとった。この間、厳しい環境下での難しい任務を、隊員達は黙々と無事故で完遂した。しかも5年間、不祥事は一件もなかった。

海外での任務は、自衛隊の実物像を諸外国の眼に晒すことになる。自ずと厳しく比較、評価される。母基地を置いたクエートのみならず、共に輸送任務に就いた米軍や諸外国軍から自衛隊員に対する高い評価をいただいた。

小生が現地視察に訪れた時のことである。諸外国の将軍達が昼食会を実施してくれた。席上、何か喋れと言われたので、小生は日頃の支援に謝辞を述べた後、自衛隊の特徴として「軍法」「軍法会議」がないことを説明した。

忽ち大きな反響があった。将軍達は目を丸くして仰け反るように驚き、矢継ぎ早に質問があった。「軍法が無いのに、どうして規律が厳正なのか」「何故、脱走兵が出ないのか」「どう高い士気は維持するのか」等々。予期せぬ反響に逆にこちらが驚いた。普段、そんなことには疑問を持ったこともなく、正直言って答えに窮した。小生は苦し紛れに一言、”Samurai Spirit”（武士道だ）と言って何とかその場を誤魔化したが、彼らは怪訝な表情のままだった。

中東での5年間、のべ3600人の航空自衛官が派遣されたが、諸外国軍には高く評価された。規律厳正、礼儀正しく、使命感旺盛、高い操縦技術、誠実で黙々と任務遂行に専念する。さすがは武士道の国から来た兵士達等々。

日本人が本来持つ優秀な資質もあるが、主は自衛隊の教育成果であると確信している。自衛隊は特別な人が入っているから、立派な活動ができるという人

がいる。だが、これは大いなる誤解である。

自衛隊は普通の若者、平均的な若者が入って来る。平均的な日本の若者であるから、礼儀は知らない、挨拶はできない、満足な言葉遣いもできない若者も多い。だが数ヶ月、自衛隊の教育を受けただけで、親が驚くほど変身する。

「自衛隊では、どういう教育を」と一般の人から質問を受けることがある。小生は「一言で言うと戦後教育の否定です」と答えることにしている。

日本の戦後教育は、国家は悪であり敵対する存在とする偏ったイデオロギー色の強い教育がなされてきた。国家や権威を否定し、「個」や「私」を何より優先させた。思想、信条を押し付けてはならないとの美名のもと、教育現場で国旗、国歌を否定するという異常な教育が続けてきた。海外で生活したことのある人なら、日本の教育の異常さが良くわかるはずだ。

その戦後教育を否定するわけである。入隊したら先ず、宣誓をする。「事に臨んでは危険を顧みず・・・」と。「個」や「私」の優先から「公」を第一とする価値観の転換である。毎朝、国旗掲揚、毎夕、国旗降下がある。その時は何処にいても国旗に正対して敬意を払う。

戦後教育は個を優先し、国家や公に尽くすことは教えて来なかった。だが、自衛隊の教育、訓練を通じ、また実践を通じ、人に尽くす喜び、国家に尽くす生甲斐を教えると、みるみる眼の輝きが増してくる。

人間は本来、人の為、組織の為に尽くすことを喜びとするDNAを持っている。「あらゆる人間愛の中でも、最も重要で最も大きな喜びを与えてくれるのは祖国に対する愛である」と歴史家キケロが述べる。新約聖書にも「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」とある。このDNAを思いっきり発揮させ、「人は人に生かされ、人は人のために生きる」を実感する時、素晴らしい自衛官に変身するのだ。

人は、他人のため、社会のため、国家に尽くす時に最大の生き甲斐を感じず動物であり、他人のために生きることは人間にとり、自己実現に他ならない。このような人類の普遍的価値観の核心にはあえて目を伏せ、枝葉末節のみ教育してきたのが戦後教育である。

自衛隊に奉職して39年（防大含む）、自衛隊の教育は素晴らしい人間教育だと断言できる。後輩達には自信を持って続けてもらいたい。他方、日本の学校教育は、自衛隊の教育を参考にして、早期に改善すべきだろう。トマス・ジェファソンが言うように「最大の国防は良く教育された市民」なのだから。